

2020年8月7日第64回運輸政策セミナー
「Next インバウンド」シリーズ vol.1 宿利会長 開会挨拶

皆様こんにちは。

一般財団法人運輸総合研究所会長の宿利正史です。

運輸総合研究所では、3月以降国内外のすべてのセミナー等の開催を延期してまいりました。本日は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインによる開催といたしましたところ、多数の皆様は、第64回運輸政策セミナー「Next インバウンド」シリーズ vol.1 にご参加いただき、誠にありがとうございます。

我が国のインバウンド観光については、皆様ご承知のとおり、2019年の訪日外国人旅行者数は過去最高の3,119万人を達成し、2020年は、東京オリンピック・パラリンピックの開催と相俟って、目標の4,000万人に向けてどこまで伸ばせるかということが多くの皆様の関心事でした。この流れの中で、私ども運輸総合研究所では、当初、春頃に皆様に当研究所にお集まりいただき、「インバウンドシリーズ」という名称でセミナーを開催すべく調整しておりました。

しかしながら、今年に入り、予想もしていなかった新型コロナウイルスによるパンデミックにより、インバウンド観光をめぐる状況は一変いたしました。

外出・旅行の自粛に加えて、水際の厳格な出入国規制の結果、訪日外国人旅行者の数は、4月が2,900人、5月が1,700人、6月が2,600人と、いずれも前年比99.9%減という衝撃的な数字となって表われました。1月から6月までの合計では、約395万人、対前年比76.3%減という状況です。観光産業・交通産業に携わる皆様は、それぞれにその甚大な影響に苦闘しておられることと思います。

私は、コロナ渦を乗り越えた「ポスト・コロナ」・「アフター・コロナ」においては、インバウンドを含め「観光」は、また「交通」は、単純にコロナ前の状態が戻ってくるということにはならないと考えています。

未だ終息の目処すら立たない今回の経験を経て、人々や社会は、世界中で、生活や仕事の新たなスタイルを模索していくことになり、その過程で「観光」や「交通」は、その意義や価値やあり方を改めて見直され、取捨選択されていくと考えています。

世の中が平常な状態に戻る時のために、今こそ、これまでとは一味も二味も違う新たな観光の戦略や施策を構築しておくことが重要です。

運輸総合研究所としては、インバウンドの本格的な受入が可能となる状況を見据えて、これからのインバウンド観光戦略・施策を考えるという観点から、セミナーの名称を「Next インバウンド」シリーズと変更しました。今回を第1回目として、以後、観光庁の任命による Visit Japan 大使の方々をはじめ、今後の観光戦略・施策についての有益な示唆や手掛かりを与えていただける方々を順次お招きして、皆様と一緒にこのテーマを考えていきたいと思っております。

本日のセミナーが、皆様方にとりまして真に役立つものとなりますことを期待して、私の冒頭の挨拶といたします。

(以上)